

---

## 北陸地域国際物流戦略チーム 令和5年度 第1回 広域バックアップ専門部会

---

日 時：令和5年8月22日(火)14:00～16:00

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 302 会議室

方 式：対面・オンライン会議 (Microsoft Teams) 併用形式

出席者：別紙、名簿のとおり 34 名(会場 18 名、WEB16 名)

---

### － 議事概要 －

#### (挨拶)

#### 【座長】

- ・本日、私としては「まさか」という言葉を頭のどこかに置いて会議に臨みたいと思っている。東日本大震災前は個人あるいは一企業レベルの「まさか」という使い方が主だったのではないだろうか。しかし2011年以降は、自然環境における「まさか」や社会システム全体における「まさか」という時代になってきたのではないだろうか。地震やパンデミックそれに戦争等がそうである。
- ・私たちはこれまで首都直下型地震や南海トラフ型地震が来た時を想定し、この「まさか」に私たち北陸地域で対応することを議論してきた。東北地方は、首都直下型地震が来たら一緒に被害を受ける可能性がある。また、南海トラフ地震が来た場合は中・四国もほとんどアウトになる。いずれの地震が来た時も北陸地域は重要な役割を果たさなければならない場面があると思う。
- ・よろしければ、皆さんもこの「まさか」を想定しながらお話頂ければと思う。

#### (議事①、②後のご意見)

#### 【座長】

- ・フェリー、RORO 船の荷役形態は、陸上にタラップを下ろして行うこととなるため単純に岸壁延長、水深だけでは荷役の可否は図れない。その意味では、来年度以降の取り組みに向けて最低限、北陸地域港湾における岸壁の係船柱の設置間隔等も含めた諸元を整理しておくことが重要である。そうすることで、いざという時に船会社の方々が迅速に検討することにつながると思う。
- ・現状、事務局の方でそういった係留施設の施設諸元は、整理されているか。

#### 【事務局】

- ・現状、個別の施設台帳などで諸元を確認することはできるが、すぐに回答できるように情報をまとめたものが存在していない。座長からのご指摘も踏まえ、施設諸元の一覧表をまとめることを検討したい。

#### (議事③後のご意見)

※特段、意見・質問などなし

#### (議事④：意見交換・質疑応答)

#### 【委員 (事務局代読)】

- ・先月、名古屋港が自然災害ではなくサイバー攻撃で2日半の機能停止に陥ったが、復旧が長引いた場合には、やはり我々が検討してきたような北陸地域との港湾機能バックアップが必要であると感じた。本事案については、NHK名古屋局が特番を企画しており、わたしも自然災害だけではなくサイバー攻撃や大規模システム障害時にも有効であるという観点から、港湾バックアップの仕組みが有効であることを担当ディレクターに訴求中である。

#### 【委員】

※サイバー攻撃による事業影響についてご説明

**【委員】**

- ・資料2 p.3 に、昨年度の代替輸送訓練を踏まえて、「代替輸送の具体的な手順をどうすれば企業BCPに明示的に記載してもらえるかに重点をおいた代替輸送訓練を行う。」とある。昨年度末の専門部会では、マニュアルに書くのももちろん大事だが、そこで終わりではなく、その後、訓練というプラクティスを通じて、代替手順はこういうものだとして理解してもらうことが大事だという結論となったと記憶している。明示的に記載して終わりではなく、次のステップがあるという理解で良いか。

**【事務局】**

- ・当面は企業BCPに落とし込めるような準備をしていきたい。次のステップとして、ご指摘のような繰り返しのプラクティスを継続してやっていきたい。その中で反映できるものや学び得るものが出てくると思われるため、そういうものを加えながら続けていきたいと考えている。

**【委員】**

- ・今年度の代替輸送訓練では、訓練を継続しているグループと初参加のグループを比較検証するので、その結果を楽しみにしている。おそらく訓練というプラクティスにおいて内容が頭の中で消化されていることが重要であるということになると思われる。
- ・冒頭で座長からあったように、「まさか」ということが、様々なレベルで起こっている。コロナ禍やウクライナ情勢、戦争という有事のリスクなどに対し、ここで取り組んでいる広域バックアップが有効活用できるかについてもシミュレーションを行うとよい。

**【委員】**

- ・資料2 p.3 に「商工会議所等を通じて参加を呼びかける。」と記載があり、p.41 には「中小企業等の訓練参加を促す。」とある。商工会議所との記載はないがそういった対応については全面的に協力したい。
- ・商工会議所は中小企業の集まりであり、特にメーカーがいっぱい居るというわけではないので、このような訓練を実施していることの周知を含め協力してやっていきたい。

**【委員】**

- ・物流の2024年問題について大きく取り上げられるようになり、各トラック事業者が荷主や顧客に対し、料金の見直しや作業内容の改善を積極的に働きかけ、交渉を行っているところである。全日本トラック協会を始め、各県トラック協会も顧客に寄り添いながら、交渉の一助となるような取り組みを行っている。
- ・しかしながら、まだなかなか理解を得られない顧客もいる。顧客側も資源や燃料高で厳しいところもあるため、まだまだ時間がかかると思われる。
- ・2024年4月まで時間も限られているため、少しずつでも前進して、一般消費者や顧客に迷惑をできるだけかけないような形で2024年を迎えられるようにトラック業界を挙げて努力していく。

**【委員】**

- ・2024年問題を絡めたBCPを顧客に説明しているが、まだ顧客の反応に温度差があるように思える。今までのような取り組みをさらに続けていければと考えている。

**【委員】**

- ・日本海側がようやく北海道から九州までつながったこともあり、今後は、鉄道だけでなく、海運も重要な位置を占めると思われる。
- ・災害時には国内の道路事情なども含めた複合的な情報を踏まえたBCPに対して、国を挙げて取り組まなければならないことを実感できた。

**【委員】**

- ・新潟港は東日本大震災の時に、東北太平洋側港湾の代替港として対応した。その際に一気に東北の貨物が集まったため、蔵置の問題、輸送力の問題、軽油ガソリン関連の問題が発生した。これらの問題に非常に苦労した覚えがあるため、訓練の中でもこれらの点に十分注意して準備する必要があると思われる。

**【委員】**

- ・F-LINE や日通の事例の中で敦賀港を取り扱って頂き、敦賀港にたくさんの荷物が集まっているように聞こえるが、まだまだである。
- ・内航 RORO 船やフェリーを BCP で利用することには、非常に大きなハードルがある。水面から岸壁の高さやランプウェイを降ろした際の角度などが重要となってくる。我々としても岸壁等の諸元等を基に研究して、寄港できるかについて精度を高めていくことが1番大事なことだと思う。
- ・2024年問題については、JR貨物とタッグを組んでモーダルシフトをしていくことが大事である。トラックは長く走れなくなるという問題があるため、それをカバーできるようにしていくことが大事だと思っている。

**【委員】**

- ・弊社の BCP の対応として、今貨物列車が走っていない路線に貨物列車の運転エリアを広げていこうとしている。例えば以前に運転を行っていた上越市から長野方面に入る路線などがある。
- ・また、列車積載率をアップして、2024年問題に貢献したいと思っている。

**【委員】**

- ・F-LINE や日通の事例の中でロジスティックラインを複数維持するお話を頂いた。コロナ禍でどうしても費用対効果やコスト的に偏りが多少出てくると思うが、これらを維持しながら振り分けていくことは、思い切った判断が必要だと感じた。

**【座長】**

- ・コストの吸収の仕方を、全体で平均化していくのか、それとも違うイノベーションを起こして、それ自体もコストにするなど、そのあたりが今後論点となると思われる。

**【委員】**

- ・博多-敦賀はまだ荷物が少なく苦しい時期ではあるが、2024年問題への対応の受け皿として頑張っていきたい。
- ・BCP の観点では、金沢港、伏木富山港にはトライアルで寄港しているので、いざという時には寄港することができる。新潟港なども今後トライアル等を実施し、寄港できる体制を作っていきたい。

**【委員】**

- ・この専門部会に出席している中で、長野県は唯一港湾を持たない。そうすると長野県トラック協会の役割がどういった位置づけになるかよくわからない部分がある。
- ・2024年問題は全国共通であるが、最後の物資の届け先は消費者であるため、BCP を含め、如何に消費者に理解してもらうかが重要である。

**【委員】**

- ・本日、初めてこの会に参加したが、皆様のいろいろな苦勞がよくわかった。会員にもトラック業界の事業者もいるため、内部で問題を把握し、皆様の意見を聞きながら勉強していきたい。

**【委員】**

- ・2024年問題への対応として、物流事業者としてドライバー業務の平準化を進めている。
- ・また、中継輸送の利用の中で、シャーシを切り離してすぐに次の配達に行けるような中継の設定を行っている。
- ・外航海運の中では、CFS の受付方法をウェブで事前予約にしている。
- ・インランドデポ・コンテナラウンドユースもコンテナ搬出入を避ける点で2024年問題の対応策となり得る。

**【委員】**

- ・代替輸送の対策が年々進展され素晴らしいので、資料2の p.3 や p.41 にあるように、情報発信や訓練への参加依頼等を通じて、引き続き取り組み内容をもっと広げていってほしい。
- ・普段様々な業界の方々とは対話する中では、残念ながら、代替輸送を含め、まだまだ平時のうちには事業継続対策の必要性が認識できず、実際に被災して初めて必要性に気付かれる場合が少なくないと感じる。代替輸送の重要性を是非被災前に自分事として理解して頂くためにも、そのような方々の訓練への参加は非常に重要と考える。
- ・事業継続対策や代替輸送の費用対効果については、運送業者だけでなく、利用者にも理解頂く必要がある。消極的な利用者には、ある程度インセンティブを付与しながら平時から代替輸送の利用を促すような仕組みも必要と

考える。社会全体で取り組む必要があるため、公的な機関でそのような仕組みを検討して頂くのもよいのではないかと。

#### 【委員】

- ・今年度は11年目の訓練となる。当初は、太平洋側の国交省関係者に話すと代替輸送なんてとんでもない、という感じであった。そこから11年やり続けて来られたのは日本で北陸地整だけだと思っている。この取り組みはもっと発信しなければいけないとつくづく感じている。
- ・資料2 p.42にあるように事業継続推進機構のaward (BCAO Award 2022) を受賞している。審査委員の中で出た意見として、非常にいい取り組みを10年間やってきているが訓練の具体的な評価がどうなっているのかが明確でない点が議論となった。今年度は、評価軸をしっかりと提示し、訓練自体が非常に有効性の高いことを示したい。また、場合によっては論文にして情報発信をしていきたい。
- ・北陸地方整備局の代替輸送訓練に参加すること自体がBCP対策と言えるくらいの位置づけを取れるようになっていくとよい。コストやリードタイムより継続性をしっかりとすることが、これからの企業あるいは社会にとって重要であると理解が深まっていくのではないかと。
- ・今年度は2024年問題にも取り組むが、物流関係の委員に力を入れてもらって、トラック業界の方々にこういった場に来て頂いて議論を行ってもらうことが一丁目一番地だと思う。
- ・現在、物流事業者から荷主に折衝を行っているところだと思うが、物流事業者が共通認識として同じ目線くらいまで持ってこない、荷主に理解頂くのはなかなか難しい。
- ・訓練でコストが2割アップする話をすると担当者はみんなビックリする。実際の災害時にコストがかかるから納期が遅れてもいい、と言ったら世の中とんでもないことになる。
- ・北陸での議論を首都圏や中部地区でシンポジウムの形で発信したらどうか。
- ・委員から話があったようにサイバー攻撃を設定した代替輸送も考えられる。名古屋港は2日間で済んだが、これが数日続いたらどうするのかなど、まだ検討されていない。また、北陸側の港湾がサイバー攻撃を受けた場合に相互で代替輸送できるなど対策を講じておくことで、事業継続性の取り組みを強化し、安心して北陸港湾を利用できるようにすることが重要である。
- ・今年度の外貿訓練は非常に大きなチャレンジであると思う。代替輸送手引書の内容が企業BCPに書かれて初めて議論となると実務的に見ていて感じる。代替手引書の要素をまずBCPに入れることで、初めて代替性が事業継続の中で生きてくると考える。
- ・今回のコロナ禍でレジリエンス認証の審査を行ったが、今までのBCPから財務BCPや調達BCPといった言葉ができてきた。BCPと言ってもそれぞれ個別に事業継続しなければいけない、という観点が出てきたところで、物流BCPやサプライチェーンのBCPの中に代替輸送を入れ込めば、企業の改善活動に回っていくと思われる。物流BCPやサプライチェーンのBCPの中に代替輸送の要素をどう入れていくのかというメッセージを発信することで、企業側にその要素が入っているか、その訓練の検証をしているかのチェックができる。こういった点は北陸地整が出せているメッセージだと思うので、うまくそのあたりを今年の訓練の外貿、内航を通じてできたらと思っている。
- ・今年度は特に、より皆様のご協力を得て、多くの方に参加を得て、今後の北陸の取り組みってすごいと言われるような形を取れたらよいと思うので、ご協力をお願いしたい。

#### 【座長】

- ・委員の話のを伺って思ったのが、情報発信方法はいろいろな工夫の仕方があると思う。中でも他の地方整備局の方にもオブザーバーでもよいので、参加して頂くとうよい。彼らも情報を持ち帰って、その地域に合った形で代替輸送訓練などを行うのではないかと。

- ・今までBCPは何をやっているのか認識されていなかったが、SDGsや2024年問題、地球環境問題などで、BCPが鍛えられてきており、内容が豊富化してきている。ますますBCPをきっちりやっておかないと、まずいことになるという感覚を、今日お話しを伺って思った次第である。
- ・今後の自主訓練等々にも活かして頂きたいと思う。
- ・訓練の内容については異議がないため、事務局提案のとおり、「外貿コンテナ代替輸送訓練」並びに「内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送ワークショップ」を進め、次回の専門部会において報告頂きたい。

(挨拶)

以上